

20%であった。2. 分裂病群の平均脳摂取係数は  $383.08 \pm 102.80$  と変動大きく、うつ病群は  $359.34 \pm 13.39$  と変動は小さかった。3. また両群とも脳半球間に有意な血流差はなかった。以上より前頭葉血流低下は分裂病に特有なものではなく、また機能性精神病においては脳半球機能状態に大きな偏りがないことが判明した。

28. CT で低吸収域を呈した部位に  $^{123}\text{I}$ -IMP にて興味ある再分布を認めた左内頸動脈閉塞症の一例

外山 宏 竹下 元 片田 和廣  
江尻 和隆 真下 伸一 藤井 直子  
安野 泰史 河村 敏紀 斉藤 隆司  
伊藤 毅 竹内 昭 古賀 祐彦

(保健衛生大・放)

IMP delayed image で明瞭な再分布を示した脳梗塞の一例を経過観察したので報告した。亜急性期の IMP early image で左中大脳動脈領域に広範な集積の低下があり、delayed image で CT で enhance を認めた low density area にも明瞭な再分布を認めた。慢性期の IMP では CT の low density area とほぼ一致して再分布を認めなかった。亜急性期に梗塞の中心部にも再分布するのは血液脳関門の破壊と肉芽組織との関係が考えられた。慢性期にも神経学的に改善を認めなかったが、再分布と viability の関係は再分布した部位の神経学的所見と予後との関係を詳細に検討する必要があると思われた。